

## 初期の野球カード

日本でも人気の高い野球カードですが、1880年代後半の米国で、紙巻タバコのパッケージに入れる補強用厚紙に様々なイラストや写真を印刷した「おまけカード」の一つとして、野球選手のカードもつくられるようになり広まったといわれています。

野球体育博物館にはそんな初期の野球カードが3点あります。いずれも今から120年以上前の1887年に「オールドジャッジ」というタバコについていた「おまけカード」です。大きさはタテ約6.5cm、ヨコ約3.6cmで、選手の写真が名前、ポジション、所属チームとともに印刷されています。写真左は、ネッド・ハンロン中堅手、後にドジャースなどで監督としても活躍しました。中央は、マーク・ポールドウィン投手、大リーグで通算154勝しています。右は、ボブ・カルーサーズ投手、通算で218勝していますが、外野手も兼ねていました。

初期の野球カードとしても、また、ユニホームなど当時の様子がよくわかる資料としてもとても貴重なものです。



野球体育博物館に保存されている初期の野球カード